

**HONDA**

2015年度 第1四半期

2015年4月1日▶2015年6月30日

# 株主通信





代表取締役社長

八郷 隆弘

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととおよろこび申しあげます。

さて、私儀 八郷隆弘はこのたび伊東孝紳の後任として代表取締役社長に就任し新たな経営体制をスタートさせました。

Hondaは創業以来、「技術で人の役に立ちたい」「お客様の喜びは、Hondaの喜び」という想いのもと、社会に役立つ技術の開発やお客様に喜んでいただける製品づくりに取り組んでまいりました。

2008年以降の世界同時不況や大規模な災害などHondaの取り組みにとっても障壁となる出来事がありましたが、先の想いのもと全社が一つとなって難局に立ち向かい、ようやく一定の成果が現れてきた段階にあります。

また、F1やMotoGPをはじめとするモータースポーツ

活動は、最先端技術の追求はもとより、量産車へのフィードバックや人材育成の場としても大切な企業活動の一つと捉え、チャレンジを続けております。

私の役割は、こうした取り組みを受け継ぎながら、革新的でHondaらしい魅力ある製品づくりをグローバルでさらに加速させ、世界中のお客様に喜びと感動をお届けすることが第一と考えております。

これからもHondaのコーポレートスローガン『The Power of Dreams』(夢の力)を原動力に、「チームHonda」が一丸となり株主の皆様、お客様、そして社会の期待に応え、Hondaの存在価値をさらに高めていくことに全力で取り組んでまいります。

株主の皆様におかれましては、今後ともご指導ご支援を賜りますよう、よろしくお願ひ申しあげます。

2015年8月

## 連結業績ハイライト

売上収益

**3兆7,047 億円**

前年同期比 15.5 %増

営業利益

**2,392 億円**

前年同期比 16.4 %増

税引前利益

**2,823 億円**

前年同期比 15.9 %増

親会社の所有者に帰属する四半期利益

**1,860 億円**

前年同期比 19.6 %増

## 目次

株主の皆様へ ..... 01

特集 ..... 03

新体制スタート

《八郷新社長に訊く》

第91回 定時株主総会のご報告 ..... 08

新製品&Topics ..... 09

2015年度 第1四半期 連結業績ハイライト ..... 11

事業の種類別セグメントの状況 ..... 13

所在地別セグメントの状況 ..... 17

業績の推移(5ヶ年) ..... 18

要約四半期連結財務諸表の概要 ..... 19

株主様へのお知らせ ..... 23

2016年 Hondaカレンダーのご案内

2015年度 株主様ご視察会

会社概要／株式事務のご案内 ..... 26

## ■ 特集：新体制スタート《八郷新社長に訊く》

お客様や株主様と共に喜びを分かちえるよう、「チームHonda」でチャレンジしていきます。

「三つの喜び」という基本理念に立ちかえり、全従業員が一丸となって挑む。

### ——八郷さんが考える経営方針とは？

Hondaはいつの時代でも、すべての事業において強い志と高い目標を持ってチャレンジしていく会社です。最近では若いエンジニアたちの想いから生まれたS660や、創業当時からずっと蓄えてきた想いを事業に結びつけた航空機用ジェットエンジン(HF120)やHondaJetのように、みんなの力を合わせて夢をカタチしていくのがこの会社の強みだと思います。

私も研究所時代には機種開発に携わっていたので、ものをつくるプロジェクトにおいては関わるすべての者が想いを一つにし、共通の目標を掲げて取り組んでいくことが大切だと実感しています。

研究所を離れ、鈴鹿製作所や欧州、中国などにも勤務しましたが、やはり組織や国は違えども、目指すところを全員で共有して進んでいくことがいちばん力を発揮できると、Honda人生のなかで学んできました。

また一方で、お客様にたいへんご迷惑をおかけし、株主様にご心配をおかけしております四輪の品質問題については、従来からの品質担当役員に加え新たに品質改革担当役員を置くとともに、研究所の技術強化

体制を再構築し、工場やアフターサービスでの品質保証体制をさらに強化するなど、お客様の安全・安心に全社のベクトルを集中させております。

こうしたことから、これからのHondaがよりHondaらしくあるために、それぞれのプロジェクトはもちろん、組織の垣根を越えて一つのチームになることが大切だと考え、「チームHonda」という考えを掲げました。

そのためにはHondaの基本理念である「人間尊重」「三つの喜び」にもう一度立ちかえることが重要です。すべての事業において、お客様の気持ちになって考えること。お互いに相手の意見を尊重し合い、同じ方向に向かって突き進むこと。お客様の暮らしに役立てていただく(買う喜び)ために、よりよい商品を自信を持ってお届けする(売る喜び)。それを可能にするのは、同じ想いを持つチームによって創り出されたもの(創る喜び)だからであり、さらにそれがお客様の喜びにつながっていく。そんな、お客様と私たちとが喜びのサイクルでつながっていけるHondaを目指したいと思います。

### ——八郷さんが思うHondaらしさとは？

製造業というのは現場でいろいろなことを学んでいきます。自分で実践しチャレンジしていくことが大事です。



Hondaには三現主義という文化があります。「現場」「現物」「現実」を知ることが基本であり、成果を挙げる王道です。お客様が何を求めているかを自分の目で市場を見て知ること。そのうえで、他にはない技術や発想で製品を生み、その製品でお客様に感動していただけ。それがHondaのものづくりです。

また、Hondaには全員が平等に意見を言える“ワイガヤ”という文化もあります。自分の考えをぶつけ合いながらみんなで同じ想いを共有する。そして目標達成のために失敗を恐れずに何度もチャレンジし、何が何でもやり遂げる。それがHondaらしさだと思います。

「チームHonda」の考え方そのものと言えますね。

**開発・生産・調達のさらなる効率化と、グローバルオペレーションの進化を目指す。**

——鈴鹿製作所の所長時代に軽自動車の改革を指揮されましたか。



※“ワイガヤ”とは、役職や年齢などの上下関係を意識せず、自由に遠慮なく意見交換をする、社内風土・習慣。

2011年4月に鈴鹿製作所の所長に着任しました。それまでは一つのプロジェクトをS(販売)・D(開発)・E(生産)・B(調達)・Q(品質)などそれぞれの部門間で調整して進めていましたが、私が着任する前あたりから特にD・E・Bの関係性があまり機能的でないのでは、ということで見直しの動きがありました。

ちょうどその頃、Hondaとして軽自動車に改めて大きなチャレンジをしていくというタイミングだったことと、東日本大震災によって栃木研究所が一時機能しなくなってしまったことが重なり、日本専用機種である軽自動車の開発で当時の伊東社長とともにD・E・Bを一箇所で判断できる体制をつくりました。

D・E・Bが一つのチームとなって連携し合い、その全体を私が見る、という今進めている「チームHonda」体制の下地がその時につくられたのかもしれません。

——海外を含めた事業展開については？

今後もビジネスのグローバル化は広がりますが、地域によって人々の価値観は大きく違います。そのなかで事業を進めていくためには、地域ごとにスピード感を持って市場の変化に対応していくかなければなりません。

Hondaは世界6極それぞれの現地で開発、生産、調達、販売を行うという展開を、伊東前社長体制のもとで構築してきました。これを第一ステップとするならば、第二ステップとしてこのグローバルオペレーションをさらに進化させていくのが私の役目だと考えています。

6極が連携しながら生産と販売のバランスを地域単位ではなくグローバルで見つめ、フレキシブルな生産体制で補完し合い、最適な運営を図っていく。一方、



シビック タイプR(欧州仕様)のラインオフ式典  
(イギリス スウィンドン工場)

アジアや中国といった需要がいっそう増える地域には専用機種を導入しラインアップを拡充していく。こうした展開を日本が中核となってコントロールしていく体制を構築したい。

また、日本には核となる技術を創造する力をつけたい。足元を固めて将来を見据えた新技術を確立させ、さらにグローバルに展開していく。そんな構想を描いています。

**お客様の暮らしに役立つ、夢のある、  
Hondaならではの商品を投入したい。**

#### ——今後の商品展開は?

四輪では、この秋にフルモデルチェンジを予定している新型シビックがアメリカを皮切りにグローバル展開されます。プラットフォームやエンジンを一新したクルマです。次期のCR-Vやアコードといったグローバル機種も新技術による提案で展開を予定しています。

国内では、秋にスポーツモデルのシビック タイプRが登場します。また、次世代エネルギー領域では燃料電池自動車FCXクラリティの後継モデルが、今年度中の発売を目指して開発の最終段階に入っています。

二輪については、特に新興国で二輪車を生活の道具として必要とし、待ち望んでいるお客様がたくさんいらっしゃいます。少しでも多くの方々にお届けできるよう、もっとお求めやすくて、さらに楽しめるバイクをつくりていきます。

また、この年末に欧州で発売し、日本、北米で順次発売を予定しているデュアルパーパスモデル、CRF1000L アフリカツインなど、Hondaらしい楽しさを体感できる商品をお届けしていきます。

そして汎用では、歩行のリハビリテーションを支援する歩行訓練機器「Honda歩行アシスト」を、今秋より全国の病院やリハビリテーション施設を対象に事業展開していく予定です。

今後もHondaらしい商品にどうぞご期待ください。

## 八郷さんご自身について伺います。

### ——Hondaに入社したきっかけは?

子どもの頃からプラモデルや何かをつくるのが好きだったので、クルマに乗るようになってからは好きなクルマをつくってみたいと思ったのがHondaに入ったきっかけです。父親が営業職で家にいないことが多く、技術者なら夜も早く帰れるだろうと思ったのもこの道を選んだ理由でしたが、想像したとおりにはいきませんでしたね。

### ——入社当初はどんな技術者でしたか?

初めての配属はブレーキ設計でしたが、1~2年した頃にブレーキばかりやっているのが不満で上司に言つたら、だったら早く実力を着けろと怒鳴られました。そのくせ数年後に開発チームのプロジェクトリーダーになれと言われた時には、ちょっと自信ないなあと。そうしたらまたガツンと怒られて…。できるかどうかではなく、とにかくやりきるしかない、という想いが芽生えましたね。今でもその経験が生きています。

### ——これまでに失敗したことは?

開発チームの頃は失敗の連続でした。なかでもUSオデッセイ(日本名: ラグレイト)の開発責任者代行の時はコストの責任者をやりましたが、自分だけで何とかしようとして目標未達のまま評価会に出してしまい、チームのみんなにリカバーしてもらった経験があります。課題を仲間と共有することや、チームという力強さを身を持って学びました。

### ——海外赴任を経験されて感じたことは?

やはりコミュニケーションですね。それは英語や中国語を上手に話すことより、現場・現物・現実と一緒に見て知って共有し、情熱をもって気持ちを伝えることです。中国にいた時には若いスタッフとお酒を飲み交わしたことが理解し合ういちばんの近道だったこともあります。私が入社した頃のような飲み方をするので付き合うのが大変でしたけど。

### ——株主様にひとことお願いします。

Hondaはお客様の夢を実現する会社であり続けることを目指しています。これからも新価値を提供するチャレンジングな商品をお届けしたい。その実現に向けて、「チームHonda」一丸となって頑張っていきますので、ぜひ今後もご支援・ご協力をお願いいたします。

まずは「チームHonda」のサポーターになっていただき、喜びを分かち合っていけると大変うれしいです。

### プロフィール

**出生**：1959年5月 神奈川県

**座右の銘**：初志貫徹

**好きな作家**：アガサ・クリスティー(ポアロシリーズ)

**影響を受けたアーティスト**：ジョン・レノン

**趣味**：ミニカー収集

**初めての所有車**：赤のワンダーシビック3ドア

**現在の所有車**：赤黒ツートーンのN-ONE(家族共有)

# ■ 第91回 定時株主総会のご報告



第91回定時株主総会を、6月17日、東京都港区のホテル グランパシフィック LE DAIBA(ル・ダイバ)にて開催し、1,899名の株主様にご参加いただきました。

第91期の事業報告と監査報告を行った後、「剰余金の配当の件」「取締役14名選任の件」「監査役2名選任の件」の3議案を審議し、可決いたしました。

また、現在および今後の事業活動について、代表取締役社長(現取締役相談役)の伊東孝紳が説明。株主様により深くご理解いただけるよう、「製品品質の一層の向上」「世界6極体制の強化」「今後の製品やモータースポーツにおけるHondaらしさの追求」の観点から報告を行いました。

総会終了後、代表取締役社長を退任する伊東孝紳

より、6年間のご支援に対し株主様へお礼申し上げるとともに、新任取締役を代表して八郷隆弘よりご挨拶をさせていただきました。

会場ロビーには、Hondaの二輪・四輪・汎用製品を展示。HondaJetにも使用している航空機用ターボファンエンジン「HF120」もご覧いただきました。



Hondaのホームページで第91回定時株主総会の模様をご覧いただけます  
<http://www.irwebcasting.com/20150617/1/f8fdf6533e/mov/main/index.html>

Honda  
ホームページ

→ 企業  
情報

→ 投資家  
情報

→ 株式・  
債券情報

→ 株主総会  
関連資料

→ 定時株主  
総会模様

QRコードから  
アクセス!



スマートフォンやタブレットなどから、  
QRコードを読み取ってアクセスする  
こともできます。QRコードは、株式会社  
デンソーウェーブの登録商標です。

## ■ 新製品 & Topics

### 4月2日 新型オープンスポーツ「S660」を発売

スタイル・走りで心昂ぶる「Heart Beat Sport」を軽サイズで目指したS660。開放感あふれるオープン・2シーターに、運動性能を最大限に引き出すミッドシップエンジン・リアドライブレイアウトを融合。ボディを専用開発し、エンジンのレスポンスをより高めるためターボチャージャーを採用。「走る喜び」を徹底的に追求しました。軽自動車初\*の6速マニュアルトランスミッションに加え、無段変速オートマチックトランスマッisionも設定しています。

\*Honda調べ(2015年3月現在)



4月 2

8

15

### 4月8日 HondaJet ワールドツアーを開催



「空を自由に移動できるモビリティの提供」という創業当初からの夢を果たした「HondaJet」。航空機事業子会社ホンダ エアクラフト カンパニーは日本や欧州、計13カ国以上でワールドツアーを開催。日本では成田国際空港などで4月25日から5月5日まで一般公開を行いました。

### 4月15日 「平成27年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞 開発部門」を受賞



「低燃費と力強い加速を両立したハイブリッドシステムの開発」が、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めたとして、Hondaの研究員4名が受賞。走行性能を高めながらCO<sub>2</sub>排出量を大幅に削減し地球温暖化防止に寄与していることが評価されました。

## 4月24日 新型「ステップワゴン」 「ステップワゴンスパード」を発売



ミニバンの新たな楽しさ・便利さを創造する独自の新提案「わくわくゲート」<sup>※1</sup>採用。テールゲートが縦だけでなく一部が横にも開き、ドアのように乗り降りできるなど使い方を広げました。クラス最大級<sup>※2</sup>の室内空間、新開発ターボエンジンがもたらす低燃費かつパワフルな走りも魅力です。

※1 タイプ別設定 ※2 Honda調べ。1.5~2.0Lクラス、全高1,800mm以上、7人乗り(2015年4月現在)

24

27

5月

## 4月27日 パーソナルモビリティ「UNI-CUB β」が イタリア・ミラノ万博デビュー



腰をかけて体重移動するだけで思う方向へ自在に動ける「UNI-CUB β」が、イタリア・ミラノ万博(2015年5月1日~10月31日)日本館に。アテンダントが実演しつつ来館者をご案内。世界からのお客様に、先進の“人と調和するパーソナルモビリティ”的姿を披露しています。

## 5月15日 新型コンパクトステーションワゴン 「シャトル」を発売



扱いやすい5ナンバーサイズで、広い荷室、堂々たるスタイル、低燃費、走りや細部までの上質感を一挙に叶えた「シャトル」。特にステーションワゴンにとって大切な荷室はクラス最大<sup>\*</sup>の広さを誇り、大きな開口部やフラットな床、豊富な収納など、優れた使い勝手を実現しています。

※ 5ナンバーステーションワゴンとして。Honda調べ(2015年4月現在)

15

20

## 5月20日 第7回太平洋・島サミット関連行事に参加 -Hondaの考えるスマートコミュニティを提案-

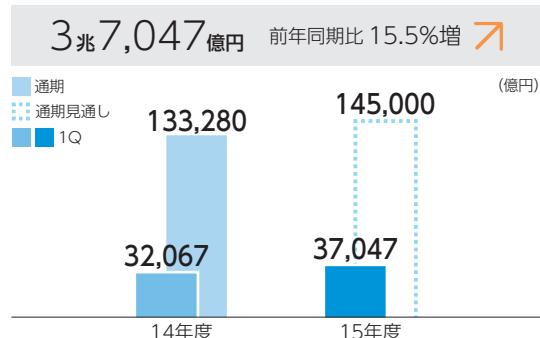


日本と太平洋島しょ国の絆の強化を目的としたサミット(今回は福島県で開催)の行事に参加。各地域が直面するエネルギー・環境問題の解決に向けた事例として、電動モビリティやエネルギー・マネジメントの技術、独自のスマート水素ステーションを軸とした水素社会を提案しました。

# 2015年度 第1四半期 連結業績ハイライト

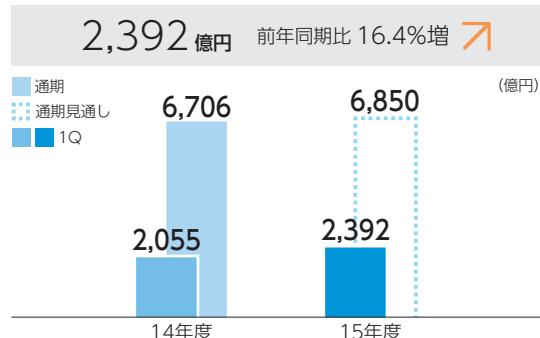
## 売上収益

四輪事業や金融サービス事業の売上収益の増加、為替換算による売上収益の増加影響など

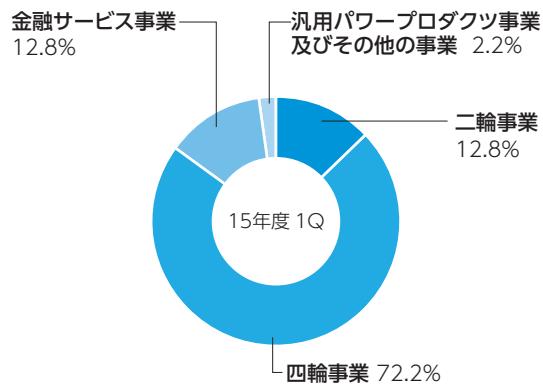


## 営業利益

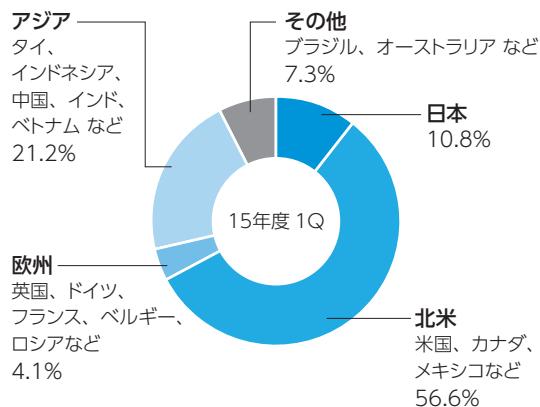
売上変動及び構成差に伴う利益増、コストダウン効果、為替影響など



## 事業別売上収益構成



## 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上構成



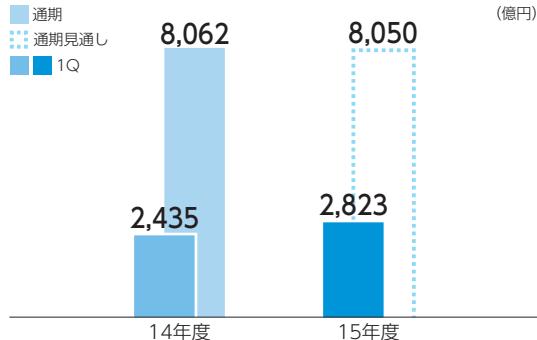
※ 当第1四半期の平均為替レートは1USドル=121円(前年同期102円)です。

※ 業績見通しは、現時点で入手可能な情報に基づき当社の経営者が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。

※ 見通しの為替レートは、通期平均で1米ドル=115円を前提としています。

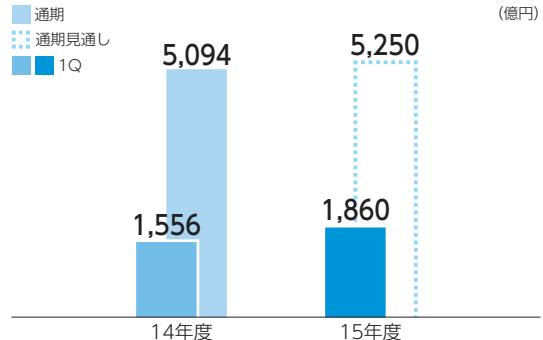
## 税引前利益

2,823 億円 前年同期比 15.9%増 ↗



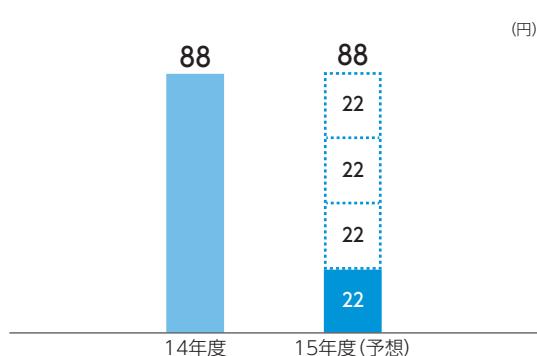
## 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益

1,860 億円 前年同期比 19.6%増 ↗



## 配当金

22 円



## 国際会計基準(IFRS)を任意適用しました

当社グループは、資本市場における財務情報の国際的比較可能性の向上ならびに、グループ会社の財務情報の均質化および財務報告の効率向上を目指し、IFRSを任意適用いたしました。

# ■ 事業の種類別セグメントの状況

## 二輪事業



### 売上収益

**4,727 億円**

前年同期比 10.8%増 ↗

### 営業利益

**555 億円**

前年同期比 33.4%増 ↗

### 売上収益

4,264 (億円)

14年度 1Q

4,727 (億円)

15年度 1Q

### 営業利益

416 (億円)

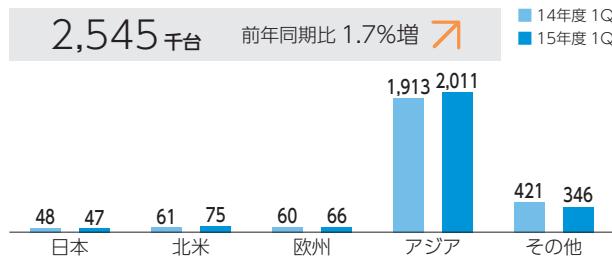
14年度 1Q

555 (億円)

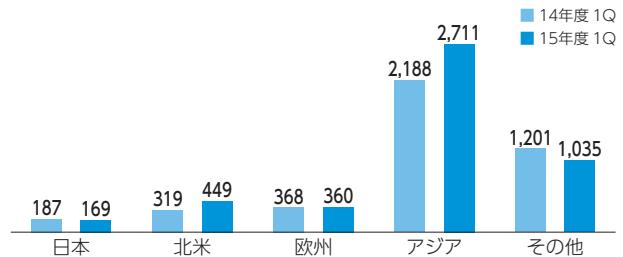
15年度 1Q

二輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の増加や為替換算による売上収益の増加影響などにより、4,727億円と前年同期にくらべ10.8%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加や為替影響などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益増などにより、555億円と前年同期にくらべ33.4%の増益となりました。

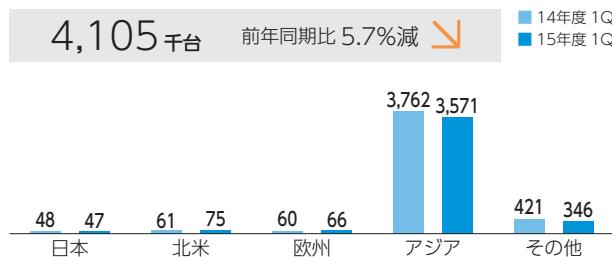
### 連結売上台数



### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



### Honda グループ販売台数



※ Honda グループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

## 四輪事業



### 売上収益

**2兆6,758億円**

前年同期比 14.4%増 ↗

### 営業利益

**1,307億円**

前年同期比 18.0%増 ↗

### 売上収益

23,382 (億円)

14年度 1Q

26,758 (億円)

15年度 1Q

### 営業利益

1,108 (億円)

14年度 1Q

1,307 (億円)

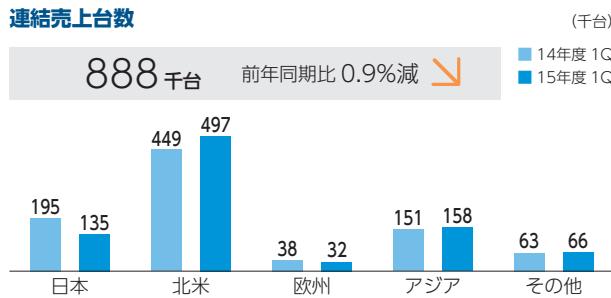
15年度 1Q

四輪事業の外部顧客への売上収益は、連結売上台数の減少などはあったものの、為替換算による売上収益の増加影響などにより、2兆6,758億円と前年同期にくらべ14.4%の増収となりました。営業利益は、品質関連費用を含む販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、台数変動及び構成差に伴う利益増、コストダウン効果、為替影響などにより、1,307億円と前年同期にくらべ18.0%の増益となりました。

### 連結売上台数

888 千台

前年同期比 0.9%減 ↘



### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益

15,958 (億円)

14年度 1Q

12,355 (億円)

15年度 1Q

4,089 (億円)

14年度 1Q

3,303 (億円)

15年度 1Q

日本

北米

欧州

アジア

その他

1,153 (億円)

14年度 1Q

975 (億円)

15年度 1Q

4,310 (億円)

14年度 1Q

4,976 (億円)

15年度 1Q

日本

北米

欧州

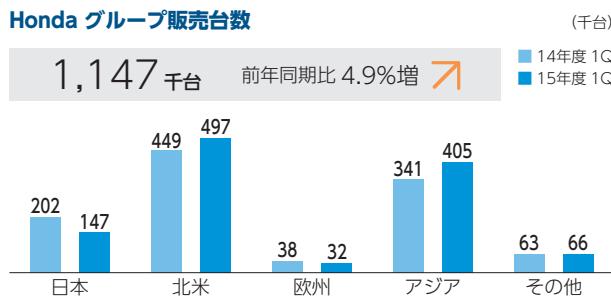
アジア

その他

### Honda グループ販売台数

1,147 千台

前年同期比 4.9%増 ↗



※ Honda グループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の完成車販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の完成車販売台数です。

# ■ 事業の種類別セグメントの状況

## 汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業



### 売上収益

**825億円**

前年同期比 6.2%増 ↗

### 営業利益

**5億円**

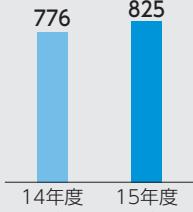
前年同期比 84.6%減 ↓

### 売上収益

(億円)

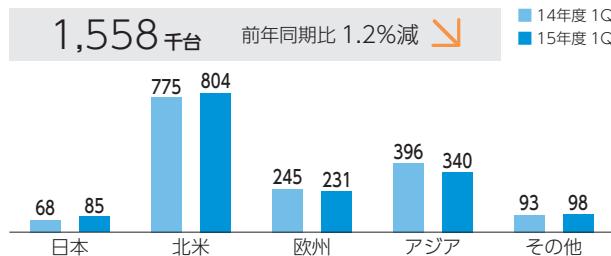
### 営業利益

(億円)

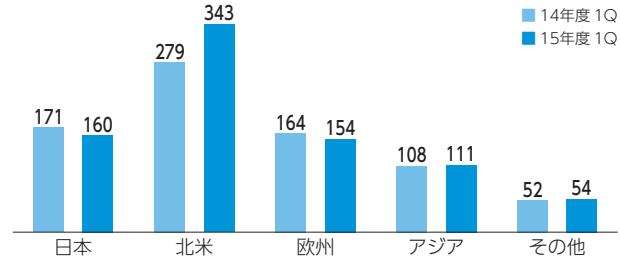


汎用パワープロダクツ事業及びその他の事業の外部顧客への売上収益は、為替換算による売上収益の増加影響などにより、825億円と前年同期にくらべ6.2%の増収となりました。営業利益は、その他の事業に関する費用の増加や為替影響などにより、5億円と前年同期にくらべ84.6%の減益となりました

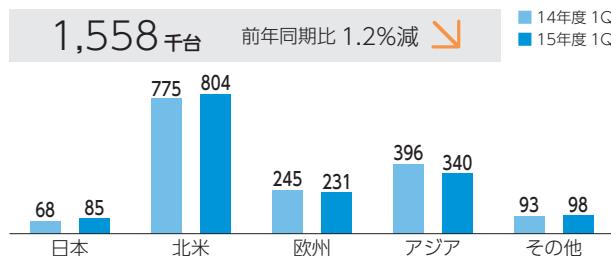
### 連結売上台数



### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



### Honda グループ販売台数



※ Honda グループ販売台数は、当社および連結子会社、ならびに持分法適用会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。連結売上台数は、当社および連結子会社の汎用パワープロダクツ販売台数です。

## 金融サービス事業



### 売上収益

**4,736億円**

前年同期比 30.0%増 ↗

### 営業利益

**524億円**

前年同期比 5.7%増 ↗

### 売上収益

4,736  
(億円)

3,644

14年度  
1Q

15年度  
1Q

### 営業利益

524  
(億円)

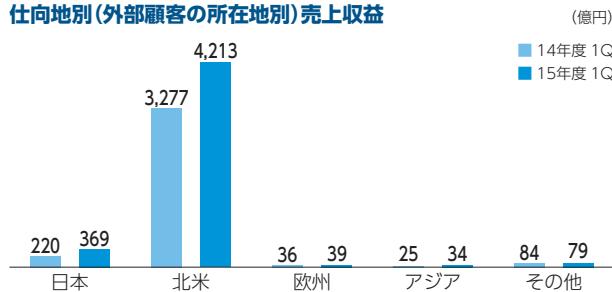
496

14年度  
1Q

15年度  
1Q

金融サービス事業の外部顧客への売上収益は、オペレーティング・リース売上、リース車両売却売上の増加や為替換算による売上収益の増加影響などにより、4,736億円と前年同期にくらべ30.0%の増収となりました。営業利益は、販売費及び一般管理費の増加などはあったものの、為替影響などにより、524億円と前年同期にくらべ5.7%の増益となりました。

### 仕向地別(外部顧客の所在地別)売上収益



### 詳細な財務情報等につきましてはIRサイトをご参照ください

インターネット上にIRに関するウェブサイトを開設し、最新の決算情報やアニュアルレポートをはじめとするさまざまな情報をご案内しています。

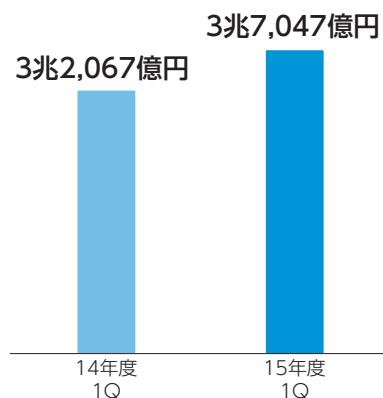
- 決算報告書
- 決算説明会資料
- 有価証券報告書／四半期報告書等
- アニュアルレポート
- FORM 20-F
- FORM SD / Conflict Minerals Report
- 株主通信・事業報告書
- IRロードショーサービス
- 電子公告
- 証券取引所提出資料
- 生産・販売・輸出 月次データ
- etc.

[日本語] <http://www.honda.co.jp/investors/>

[英 語] <http://world.honda.com/investors/>

## ■ 所在地別セグメントの状況

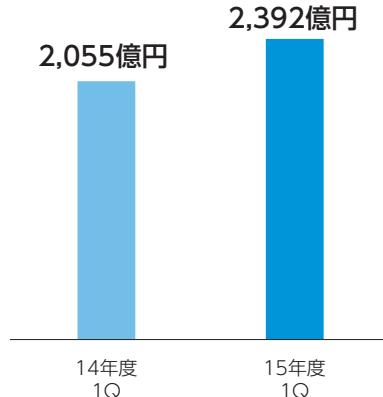
### 売上収益



所在地	15年度 1Q 売上収益	前年同期比
日本	<b>9,165億円</b>	7.0%減 ↘
北米	<b>2兆1,916億円</b>	26.7%増 ↗
欧州	<b>1,708億円</b>	11.3%減 ↘
アジア	<b>8,989億円</b>	19.3%増 ↗
その他	<b>2,406億円</b>	0.1%増 ↗

※ 所在地別の売上収益は、外部顧客および他セグメントへの売上収益を含めて表示しています。

### 営業利益



所在地	15年度 1Q 営業利益	前年同期比
日本	<b>278億円</b>	350億円減 ↘
北米	<b>1,090億円</b>	423億円増 ↗
欧州	<b>△9億円</b>	27億円減 ↘
アジア	<b>955億円</b>	265億円増 ↗
その他	<b>45億円</b>	40億円減 ↘

北米：米国、カナダ、メキシコ など

その他：ブラジル、オーストラリア など

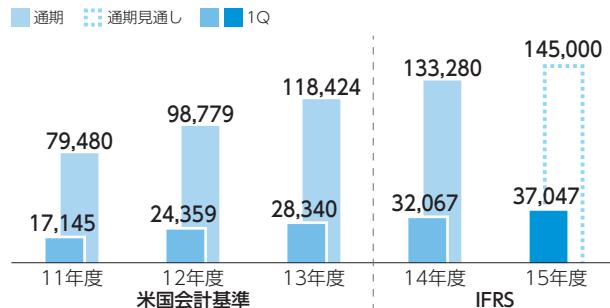
欧州：英国、ドイツ、フランス、ベルギー、ロシア など

アジア：タイ、インドネシア、中国、インド、ベトナム など

# ■ 業績の推移(5ヶ年)

## 売上収益

※ 11年度～13年度は、米国会計基準に基づいた「売上高及びその他の営業収入」を記載しております。



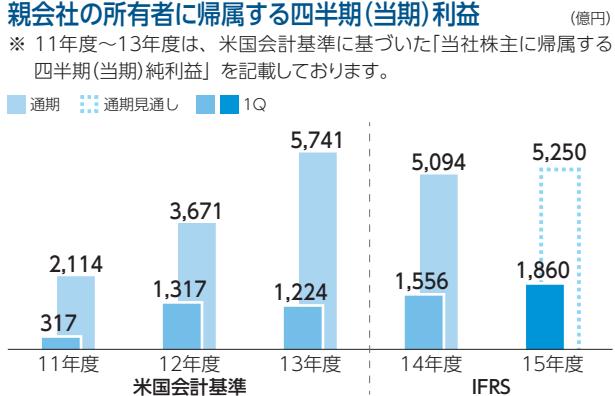
## 営業利益



## 税引前利益

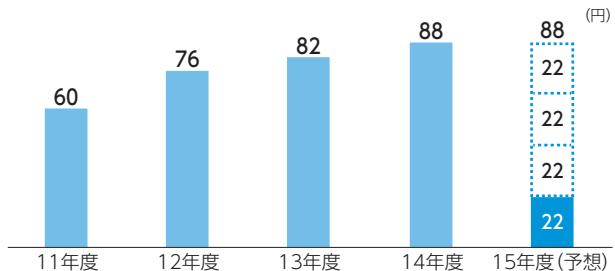


## 親会社の所有者に帰属する四半期(当期)利益



## 配当金の推移

当社は、2015年7月31日開催の取締役会において、2015年6月30日を基準日とした当第1四半期末配当金を、1株当たり22円とすることを決議いたしました。また、年間配当金の予想につきましては、1株当たり88円としています。



# 要約四半期連結財務諸表の概要

## 要約四半期連結財政状態計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計 年度末 2015年3月31日	当第1四半期 連結会計期間末 2015年6月30日
<b>(資産の部)</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び現金同等物	1,471,730	1,650,933
営業債権	820,681	816,436
金融サービスに係る債権	2,098,951	2,128,927
その他の金融資産	92,708	90,208
棚卸資産	1,498,312	1,457,279
その他の流動資産	313,758	282,383
<b>流動資産合計</b>	<b>6,296,140</b>	<b>6,426,166</b>
<b>非流動資産</b>		
持分法で会計処理されている投資	614,975	657,832
金融サービスに係る債権	3,584,654	3,572,725
その他の金融資産	350,579	350,592
オペレーティング・リース資産	3,335,367	3,552,875
有形固定資産	3,189,511	3,257,301
無形資産	759,535	785,562
繰延税金資産	138,069	131,847
その他の非流動資産	157,007	163,603
<b>非流動資産合計</b>	<b>12,129,697</b>	<b>12,472,337</b>
<b>資産合計</b>	<b>18,425,837</b>	<b>18,898,503</b>

(単位:百万円)

科 目	前連結会計 年度末 2015年3月31日	当第1四半期 連結会計期間末 2015年6月30日
<b>(負債及び資本の部)</b>		
<b>流動負債</b>		
営業債務	1,157,738	1,111,277
資金調達に係る債務	2,833,563	3,096,771
未払費用	377,372	378,632
その他の金融負債	109,715	123,600
未払法人所得税	53,654	105,452
引当金	294,281	341,046
その他の流動負債	474,731	460,057
<b>流動負債合計</b>	<b>5,301,054</b>	<b>5,616,835</b>
<b>非流動負債</b>		
資金調達に係る債務	3,926,276	3,854,931
その他の金融負債	61,147	55,519
退職給付に係る負債	592,724	606,631
引当金	182,661	183,252
繰延税金負債	744,410	740,428
その他の非流動負債	234,744	233,007
<b>非流動負債合計</b>	<b>5,741,962</b>	<b>5,673,768</b>
<b>負債合計</b>	<b>11,043,016</b>	<b>11,290,603</b>
<b>資本</b>		
資本金	86,067	86,067
資本剰余金	171,118	171,118
自己株式	△26,165	△26,170
利益剰余金	6,083,573	6,230,039
その他の資本の構成要素	794,034	883,951
親会社の所有者に 帰属する持分合計	7,108,627	7,345,005
<b>非支配持分</b>	<b>274,194</b>	<b>262,895</b>
<b>資本合計</b>	<b>7,382,821</b>	<b>7,607,900</b>
<b>負債及び資本合計</b>	<b>18,425,837</b>	<b>18,898,503</b>

**要約四半期連結損益計算書**

(単位:百万円)

科 目	前第1四半期 連結累計期間 自 2014年 4月 1 日 至 2014年 6月30日	当第1四半期 連結累計期間 自 2015年 4月 1 日 至 2015年 6月30日
売上収益	3,206,743	3,704,762
営業費用		
売上原価	△2,501,612	△2,885,646
販売費及び一般管理費	△362,408	△434,488
研究開発費	△137,216	△145,342
営業費用合計	△3,001,236	△3,465,476
営業利益	205,507	239,286
持分法による投資利益	36,238	38,315
金融収益及び金融費用		
受取利息	6,155	7,792
支払利息	△4,738	△4,825
その他(純額)	437	1,759
金融収益及び 金融費用合計	1,854	4,726
税引前利益	243,599	282,327
法人所得税費用	△76,516	△78,451
四半期利益	167,083	203,876
四半期利益の帰属		
親会社の所有者	155,604	186,037
非支配持分	11,479	17,839

**要約四半期連結包括利益計算書**

(単位:百万円)

科 目	前第1四半期 連結累計期間 自 2014年 4月 1 日 至 2014年 6月30日	当第1四半期 連結累計期間 自 2015年 4月 1 日 至 2015年 6月30日
四半期利益	167,083	203,876
その他の包括利益(税引後)		
純損益に振り替えられることのない項目		
確定給付制度の再測定	△6,917	—
その他の包括利益を通じて公正価値で測定する金融資産の公正価値の純変動	8,886	2,578
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分	△644	364
純損益に振り替えられる可能性のある項目		
在外営業活動体の為替換算差額	△38,132	79,612
持分法適用会社のその他の包括利益に対する持分	△1,075	7,716
その他の包括利益(税引後)合計	△37,882	90,270
四半期包括利益	129,201	294,146
四半期包括利益の帰属		
親会社の所有者	121,850	276,033
非支配持分	7,351	18,113

# 要約四半期連結財務諸表の概要

## 要約四半期連結持分変動計算書

(単位:百万円)

前第1四半期連結累計期間 自 2014年 4月 1日 至 2014年 6月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	合計		
2014年 4月 1日 残高	86,067	171,117	△26,149	5,831,140	273,359	6,335,534	223,394	6,558,928
四半期包括利益								
四半期利益				155,604		155,604	11,479	167,083
その他の包括利益(税引後)					△33,754	△33,754	△4,128	△37,882
四半期包括利益合計				155,604	△33,754	121,850	7,351	129,201
利益剰余金への振替				△6,916	6,916	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△39,650		△39,650	△12,300	△51,950
自己株式の取得			△2			△2		△2
資本取引及びその他							△428	△428
所有者との取引等合計			△2	△39,650		△39,652	△12,728	△52,380
2014年 6月30日 残高	86,067	171,117	△26,151	5,940,178	246,521	6,417,732	218,017	6,635,749

(単位:百万円)

当第1四半期連結累計期間 自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日	親会社の所有者に帰属する持分						非支配持分	資本合計
	資本金	資本剰余金	自己株式	利益剰余金	その他の資本の構成要素	合計		
2015年 4月 1日 残高	86,067	171,118	△26,165	6,083,573	794,034	7,108,627	274,194	7,382,821
四半期包括利益								
四半期利益				186,037		186,037	17,839	203,876
その他の包括利益(税引後)					89,996	89,996	274	90,270
四半期包括利益合計				186,037	89,996	276,033	18,113	294,146
利益剰余金への振替				79	△79	—		—
所有者との取引等								
配当金の支払額				△39,650		△39,650	△26,812	△66,462
自己株式の取得			△5			△5		△5
資本取引及びその他							△2,600	△2,600
所有者との取引等合計			△5	△39,650		△39,655	△29,412	△69,067
2015年 6月30日 残高	86,067	171,118	△26,170	6,230,039	883,951	7,345,005	262,895	7,607,900

## 要約四半期連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

科 目	前第1四半期 連結累計期間 自 2014年 4月 1日 至 2014年 6月30日	当第1四半期 連結累計期間 自 2015年 4月 1日 至 2015年 6月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	133,113	415,896
投資活動による キャッシュ・フロー	△209,739	△243,712
財務活動による キャッシュ・フロー	△3,985	△11,601
為替変動による現金及び 現金同等物への影響額	△6,580	18,620
現金及び現金同等物の 純増減額	△87,191	179,203
現金及び現金同等物の 期首残高	1,193,584	1,471,730
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,106,393	1,650,933

## Column

### ■ ~IFRSとは?~

IFRS(International Financial Reporting Standards)とは、国際会計基準審議会(IASB)によって設定された会計基準の総称です。従来、会計制度は国ごとに異なるのが当然と考えられてきました。しかし資本市場のグローバル化に伴い、各国で採用している会計基準では企業活動の国際間比較が次第に困難となった結果、会計基準の国際的統一が模索されています。その中心にあるのが、IFRSです。

※引用元：IFRSコンソーシアム

### ■ 表示名の違いについて

米国会計基準



IFRS

売上高及び  
その他の営業収入

売上収益

非支配持分損益控除前  
当期純利益

当期利益

当社株主に帰属する  
当期純利益

親会社の所有者に  
帰属する当期利益

純資産

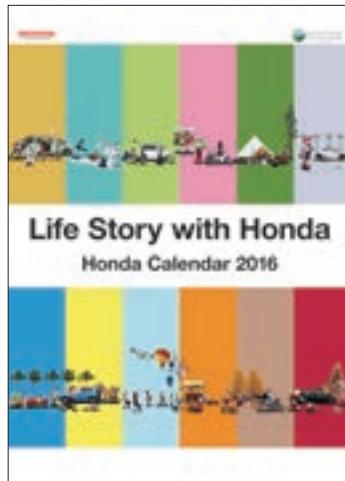
資本

## ■ 株主様へのお知らせ

### 2016年 Hondaカレンダーのご案内

来年2016年のHondaカレンダーをご希望の株主様1名につき1部(1種類)お送りいたします。以下の応募要領をご確認の上、お申し込みください。

**Hondaカレンダー**  
(見開きA3サイズ)



表紙(イメージ)



1月(イメージ)

※ 写真は見本です。デザインを一部変更する場合もございますのでご了承ください。

**応募方法** 同封の応募ハガキをご郵送ください。※一单元(100株)以上保有の株主様が対象です。

**応募締切日** **2015年10月2日(金) (当日必着)**

- カレンダー発送**
- 12月上旬頃から順次発送予定です。**(株主様1名につき1部・1種類)**  
お届け先は**2015年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。
  - 転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。  
該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先：「Hondaカレンダー」係 電話 **03-6743-3226** (平日9:00~17:00 土・日・祝日を除く)

## 2015年度 株主様ご視察会～①工場見学会のご案内

株主の皆様にHondaの事業活動をより一層ご理解いただきたく、工場見学会を開催しております。

参加をご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

開催場所	開催日・記号	時間	募集人数	生産品目・アクセス
ホンダ太陽(株) (大分県速見郡日出町)	2015年 10/29(木)① 10/30(金)②	13:30～15:30頃	各50名様	生産品目：部品製造(四輪車・二輪車・汎用製品) 最寄駅：JR日豊線「湯谷駅」より送迎バスあり。
熊本製作所 (熊本県菊池郡大津町)	2015年 11/5(木)③ 11/6(金)④	13:30～15:45頃	各100名様	生産品目：二輪車、汎用製品 ゴールドウイング(GL1800)、CBシリーズ、 コージェネレーションユニット等 最寄駅：阿蘇くまもと空港、JR豊肥本線「肥後大津駅」 送迎バス有り。熊本製作所に駐車場用意
鈴鹿製作所 (三重県鈴鹿市)	2015年 11/12(木)⑤⑥ 11/13(金)⑦⑧	午前の部 9:00～11:15頃 午後の部 13:30～16:00頃	午前の部 各80名様 午後の部 各160名様	生産品目：四輪車 Nシリーズ等 最寄駅：近鉄名古屋線「白子駅」送迎バス有り。 鈴鹿サーキットに駐車場用意
埼玉製作所 寄居工場 (埼玉県大里郡寄居町)	2015年 12/7(月)⑨ 12/8(火)⑩	13:30～15:45頃	各100名様	生産品目：四輪車 フィット等 最寄駅：東武東上線・JR八高線「小川町駅」 送迎バス有り。駐車場なし

※ 一单元(100株)以上保有の株主様が対象です。

※ **募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。**

※ 毎年多数の応募があるため、応募は1コース・参加は株主様ご本人のみとさせていただきます。

※ 各製作所または最寄駅までの交通費は株主様ご本人負担とさせていただきます。

### 応募方法

- ①同封の応募ハガキに、参加ご希望の工場見学会の記号(A～J)のいずれか1つに○をつけてご郵送ください。少しでも多くの方をご招待するため、レース招待との同時応募はできません。
- ②連絡先のお電話番号をご記入いただき、個人情報保護シールを貼付の上、ご郵送ください。  
ご記入いただいた電話番号はご視察会以外の目的では使用いたしません。

### 応募締切日

当選時の  
詳細のご案内

2015年9月11日(金) (当日必着)

- **抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。**  
発送は10月中旬～下旬頃を予定しています。
- お届け先は**2015年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。  
転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。
- 該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

お問合せ先：「株主様ご視察会」係 電話 03-6743-3226 (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

# ■ 株主様へのお知らせ

## 2015年度 株主様ご視察会～② レースへのご招待

株主の皆様の日頃のご支援に感謝をこめて、本年10～11月に開催される以下のレース（いずれか1レース）へご招待いたします。チケットをご希望される株主様は、以下の内容をご確認の上、お申し込みください。

レース名称	レース概要(関連リンク)	開催日	開催場所	募集人数
スーパー耐久シリーズ 2015 第6戦 スーパー耐久・鈴鹿	普段、公道で見かける市販車を改造したツーリングカー レース。ST-XとST-1～ST-5の6クラスにより競われる。 <a href="http://www.suzukacircuit.jp/s-taikyu_s/special/point.html">http://www.suzukacircuit.jp/s-taikyu_s/special/point.html</a>	2015年 10/24(土)予選 ・25(日)決勝		
2015 MFJ全日本ロードレース選手権 シリーズ最終戦 第47回MFJグランプリ スーパーバイクレース in鈴鹿	国内最高峰のオートバイ・ロードレースJSB1000(国内 外の新型1リッタースーパースポーツバイク)を最高峰に、 600ccのJ-GP2など合計4クラス <a href="http://www.suzukacircuit.jp/superbike_s/">http://www.suzukacircuit.jp/superbike_s/</a>	2015年 10/31(土)予選 ・11/1(日)決勝	鈴鹿サーキット	2,000組 4,000名 ※大人2名、 他に高校生以下 3名まで無料で 入場可
2015年 全日本選手権 スーパーフォーミュラ最終戦 第14回JAF鈴鹿グランプリ	オープン・シングルシーターのフォーミュラカーによ って競われる国内最高峰の自動車レース。エンジンは 排気量2,000cc、ターボチャージャー付直列4気筒 (Honda、TOYOTA供給) <a href="http://www.suzukacircuit.jp/superformula/">http://www.suzukacircuit.jp/superformula/</a>	2015年 11/7(土)予選 ・8(日)決勝		
2015 SUPER GTシリーズ第8戦 もてぎGT250kmレース	国内最高峰のツーリングカーレース。 エンジンパワーが約500馬力のGT500クラスと約300馬 力のGT300クラス <a href="http://www.twinring.jp/supergt_m/">http://www.twinring.jp/supergt_m/</a>	2015年 11/14(土)予選 ・15(日)決勝	ツインリンク もてぎ	

※ 一単元（100株）以上保有の株主様が対象です。

※ 募集人数を上回るご応募があった場合、抽選とさせていただきます。

※ 上記4レースのうち、いずれか1つのレースを選んで観戦できます。

※ 各レース会場までの交通費・各レース会場の駐車料金は株主様ご本人負担とさせていただきます。

**応募方法** 同封の応募ハガキ(工場見学会用と共用)の「レース招待」(K)に○をつけてご郵送ください。  
少しでも多くの方をご招待するため、**工場見学会との同時応募はできません。**

**応募締切日** 2015年9月11日(金) (当日必着)

**当選時の詳細のご案内** ■抽選結果は当選者へのご案内の発送をもってかえさせていただきます。

発送は10月上旬頃を予定しています。

■お届け先は**2015年6月末時点の株主名簿記載の住所**とさせていただきます。

転居等で住所変更がある場合は下記までご連絡ください。

■該当の株主様以外には送付いたしかねますのでご了承ください。

**お問合せ先：「株主様ご視察会」係 電話 03-6743-3226** (平日9:00～17:00 土・日・祝日を除く)

# 会社概要／株式事務のご案内

## 会社概要

社　　名 本田技研工業株式会社  
英　文　社　名 HONDA MOTOR CO., LTD.  
本　　社 東京都港区南青山二丁目1番1号  
(〒107-8556)

設立年月日 1948年(昭和23年)9月24日  
資　本　金 86,067,161,855円(2015年6月30日現在)  
主　な　製　品 二輪車・四輪車・汎用パワープロダクト

## 株式事務のご案内

事　業　年　度 4月1日から翌年3月31日まで

公　告　方　法 電子公告により行います。  
ただし、事故その他、やむを得ない事由により  
電子公告による公告をすることができない場合  
は、東京都において発行する日本経済新聞に  
掲載して行います。  
〔公告掲載 URL〕  
<http://www.honda.co.jp/investors/>

定時株主総会 每年6月

基　　準　日 定時株主総会 每年3月31日  
期　末　配　当 每年3月31日  
第1四半期末配当 每年6月30日  
第2四半期末配当 每年9月30日  
第3四半期末配当 每年12月31日

上場証券取引所 国内：東京証券取引所  
海外：ニューヨーク証券取引所

証券コード 7267

単　元　株　式　数 100株

住所変更、配当金のお受け取り方法の  
指定・変更、単元未満株式の買取・買増

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
(特別口座の口座管理機関)  
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主様の口座がある証券会社等にお申し出ください。  
※特別口座に株式が記録されている場合は、三井住友信託銀行株式  
会社にお申し出ください。

郵便物送付先 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

### 未払配当金の支払

(電話照会先) ☎ 0120-782-031(フリーダイヤル)

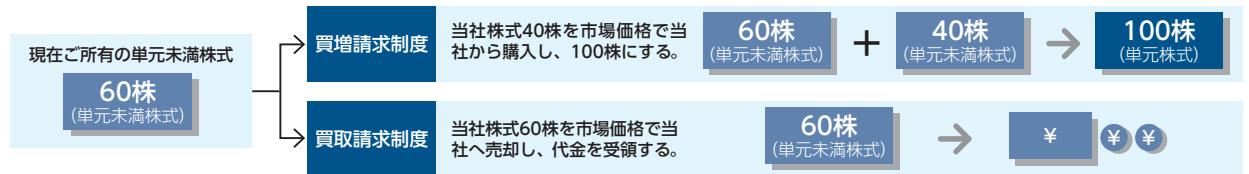
三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

☎ 0120-782-031

### 単元未満株式の買増・買取請求のご案内

当社の単元株式数は100株となっておりますので、単元未満株式(1～99株)については、市場で売買することができませんが、当社に  
対して買増請求または買取請求を行うことができます。

#### ● 買増・買取制度の例(60株ご所有の場合)





証券コード：7267

株主通信 No.166

## 本田技研工業株式会社

発行 総務部 SRブロック

〒107-8556 東京都港区南青山 2-1-1

<http://www.honda.co.jp>

UD FONT

